



雨ニモマケズ

2年担任 上田 芙美

1、2年生は、6月2日(金)校外学習に行ってきました。これまでも、担任した子供たちを何度も校外学習に連れて行きましたが、今年の校外学習はいつもとは一味違いました。というのは、あいにくの悪天候で行先が変更になったからです。子供たちはずいぶん前からファミリーパークに行くのを楽しみにしていました。行先が変更になったことを伝えたら、子供たちはどんな顔をするだろう、悲しむかもしれないなあと心配しながら子供たちに変更を告げました。しかし、私の予想とは裏腹に、新しい行先を知った子供たちは歓声を上げ、目をキラキラと輝かせていました。その歓声には、行先が決まった安堵感とこれから向かう新しい場所へのワクワク感が詰まっていました。中には、本当はファミリーパークに行きたかった、本当に校外学習に行けるのか心配で仕方なかった、急な変更を不安に感じていた、そんな子もいたと思います。しかし、友達がいるから、仲間がいるからこそ、そんな不安もなんのその！乗り越えていくことができるのですね。想定外の出来事をアンラッキーと思わずに、その状況を逆に楽しむことのできる子供たちは本当にたくましい。家族とは違う、いろいろな感じ方、考え方の友達と一緒にいるからこそ、学ぶことがたくさんあり、子供は成長していくのだと思います。川原小学校ラストイヤーにふさわしい、特別な校外学習の体験をした子供たちでした。新しい行先の氷見市海浜植物園でも子供たちは全力で楽しんでいたということは言うまでもありません。急な変更にも関わらず、受け入れてくださったバス会社の方、氷見市海浜植物園の方、どうもありがとうございました。



世界は誰かの仕事でできている

4年担任 得能 弘之

4年生は社会科で「水のゆくえ」の学習をしました。1日に一人が使う水の量は約300L。2Lのペットボトルにして、何と150本にもなります。それを知った子供たちは、「どこからそんなたくさんの水が来るんだろう」と調べ学習を始めました。調べていくうちに、自分たちの使っている水のもと、庄川の水、佐野の井戸水だということが分かり、実際に見学してくるようになりました。

子供たちは浄水施設の大きさに驚き、ダムから取水した水がきれいになっていく過程に目を見張っていました。しかし何よりの収穫は、上水の安定供給の裏に働いている方の努力があるということを見つけたことです。24時間、365日休みなしで安全で安心して飲める水を作っている方、つなぐと1000km以上にもなる水道管を絶えずメンテナンスしている方などなど、たくさんの働いている人の顔が見えました。まとめの授業の振り返りでは「水をもっと大切に使いましょう」という感想が多かったので、2週間で自分たちの力でどのくらい節水できるかチャレンジすることになりました。

子供たちは、身近な社会インフラは整っていて当然、不備があると困る、と思っています。しかし、それは誰かが責任をもって仕事をしてくれたからです。某缶コーヒーのCMではありませんが、まさに、「世界は誰かの仕事でできている」ですね。そんな社会のしくみに、これから少しずつ気づいてくれることを願っています。

